

開催概要

- ◆ 開催日時 :令和3年10月25日(月) 10:00～11:50
- ◆ 開催方法 :Zoom ウェビナー

中国情報通信懇談会は、中国総合通信局及び(一社)中国経済連合会との共催により、「第2回オープンデータ利活用セミナー※」を地方公共団体、民間企業等から47名の参加をいただき、次の内容で開催しました。

※中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル(令和元年6月設置)の令和3年度第二回会合)



◆ テーマ1 「防災道の駅」のオープンデータ検討の取組

講演者 一般社団法人データクレイドル 大島理事

防災道の駅に指定された「みやま公園」、「ソレーネ周南」は、防災拠点として地域と広域の役割があり、どのようなデータセットを用意すれば良いのかを検討し、国のデータセットに加えて、道の駅特有の防災情報(車中泊も意識したデータ)を加えた案を作成した。

今後とも、議論を続け、データ項目の追加や意見等を積極的に取り入れていきたい。是非、多くの方に活動に参加頂きたい。

講演者 国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所 桐谷副所長

「道の駅」は、平成5年に道路利用者の休憩機能サービスの提供から始まり、第2ステージでは地域創成の拠点としての位置づけ、その中で、道の駅が地域防災の拠点としても発展してきており、2020年の第3ステージでは、広域的な防災拠点としての役割を担う「防災道の駅」を位置付けており、中国地方では3つの道の駅が選定されている。今後は、防災道の駅としての機能を発揮できるよう、ハード・ソフトの整備を進めていく中で、情報提供の見直しが必要となるところは、見直しに合わせて、オープンデータ化の議論も進めるとともに、関係機関との連携を加速させ、情報提供の充実を図るべく取組を進める。

講演者 一般社団法人やまぐちGISひろば 三浦代表理事

令和3年8月に、道の駅BCP策定ガイドラインやマニュアルが公表された。道の駅BCPの観点から重要業務の優先順位など行動フローを整理している。その中で、警察、消防、病院、自衛隊やインフラ組織などとの連携を図るために円滑な情報伝達が必要と明らかとなった。そのためには、事前に必要な情報を洗い出し、時間経過と共に入るその情報をリアルタイムに更新、各組織が共有できる環境が必要である。

続きは↓

今後、必要な情報項目を検討し、中国地域から全国に展開できる防災道の駅オープンデータセットを作成していくことに取り組んでいきたい。

◆ テーマ 2 オープンデータに向けた行政データのデジタル化についての進捗や問題点等

講演者 東広島市 橋本DX推進監

平成28年に東広島市オープンデータポータルサイトを公開したが、その後データセットが増えておらず見直しの検討を開始。まずは、データの見える化、データ管理方法、使えるデータの整備を進めるなどデータ公開方針を策定している。更に情報開示請求件数の増加や行政の透明化の観点から、ニーズの高いデータを優先し、かつ匿名化した上で、内部利用と共にオープンデータを公開していくこととしている。

◆ テーマ 3 広島広域都市圏におけるオープンデータポータルサイトの進捗状況

講演者 広島市 企画総務局情報政策課 村上課長

広島広域都市圏ICT推進協議会の事業の1つとして、参加市町からの参加意向を得て、オープンデータポータルサイトの運用を本年12月から運用開始予定。データの可視化による効果的な情報発信や、データを用いた施策立案(EBPM)に資するポータルサイトの構築を目指している。また、自治体等で広く用いられている「CKAN」のAPIに対応しており、他市町のCKAN準拠のカタログサイトや、民間事業者が作成するスマホアプリと容易に連携可能とすることで、参加自治体の負担軽減も図っている。

今後、本ポータルサイトを利用する広島広域都市圏構成市町の職員を対象に、オープンデータ活用研修、ポータルサイト操作研修及びオープンデータ化支援を実施し、全ての市町で継続的にオープンデータを推進していく人材の育成を目指す。

◆意見交換

コーディネータ：一般社団法人中国経済連合会 清地常務理事

講演者：大島理事、三浦代表理事、桐谷副所長、橋本DX推進監、村上課長の5名

○「防災道の駅」について

- ・道の駅データを埋めていく中でのハードルや方向性
- ・防災拠点としての道の駅のデータ整備のあり方

○東広島市のオープンデータへの取組

- ・ぴったりサービスへの対応など

○広島広域都市圏のオープンデータへの取組

- ・ポータルサイトのデータ公開から運用へ
- ・データを出すことが目的ではなく、活用されてフィードバックされることの重要性について意見交換を行った。